

V05b 野辺山動スペクトル計の21cm(HI)用望遠鏡としての再生 II

佐藤奈穂子、西端一憲、尾久土正己、富田晃彦、石塚互 佐藤敏行(和歌山大)、豊増伸治(みさと天文台)、下代博之(下代組機工)、市川雄一(ライブ!ユニバース)、藤沢健太(山口大)、祖父江義明、半田利弘(東大天文センター)、戎崎俊一(理研)、佐藤文隆(甲南大)

1994年に運用を終了し、1998年に和歌山県のみさと天文台に移設、展示されていた口径8mの太陽電波望遠鏡(野辺山動スペクトル計)を、波長21cm(1.4GHz)のHI観測用の望遠鏡として改修、再生するプロジェクトが本年1月に本格的に動き出している事は、2006年度春学会にて紹介した。この8m電波望遠鏡再生プロジェクトの進展状況について紹介する。

8m電波望遠鏡の改修項目のうち、初年度は(1)パラボラ面の交換(2)受信機の製作を行い、完了している。今年、2年目の改修項目は、(3)天体導入装置の開発(4)電波強度の較正装置の導入(5)架台の補強・補修、の3つである。このうち、(3)は、和歌山大学教育研究支援費(18年度)(尾久土他)の採択が決定しており、(4)、(5)については、国立天文台委託研究(18年度)(佐藤他)に応募中である。

本発表では、電波望遠鏡の改修の進展状況と共に、7月9日に予定されている、みさと天文台にての8m電波望遠鏡の竣工式の様子も報告する。また、この電波望遠鏡を用いた、連続波及びHI輝線での試験観測結果について報告する。